

# 機動隊員等を励ます会

## 中国四国支部が6年ぶり開催

機動隊員等を励ます会中国四国支部（支部長・堀口悟史、堀口海運社長）は11日、広島市のANAクラウンプラザホテル広島で支部総会・激励会を開催。第一線で活躍する機動隊員を励ますこと、日本製鉄関係者やその取引先、警察幹部など総勢約300人が出席して交流を深めた。コロナ禍により近年は開催が見送られ、今回6年ぶ

り第43回目の開催となった。冒頭挨拶で堀口支部長は「1977年に中国支部が発足、2020年には中国四国支部へと拡張した。その発足総会を開く予定だったがコロナ禍と重なり中止を余儀なくされた。今回、ようやく第1回の総会を開催できる運びとなった」と喜びを表した。

G7広島サミットでは最大時2万4千人規模の警備体制が敷かれ、史上最大の警備が遂行された。堀口支部長は全国から集まった警察官、機動隊員がバスに乗車し広島を離れる際、主会場の宇品地区の住民や子どもたちが惜しめない賛辞とともに手を振り続けて見送ったとのエピソードを披露。あの場面は、史上最大の警備が100点以上のものであったことを雄弁に物語っていた。激励の輪が会員以外の一般の方にも広がっていくことが常々理想だと思っており、地元住民からの温かい見送りは、長期の警備



挨拶する中村理事長と堀口支部長

の副産物として自然発生的に広がった瞬間ではないか」と語った。続いて、中村真一理事長（日鉄物産社長）は、今年創立50周年を迎えた会の成り立ちや推移を語り「この間、機動隊の主な任務は、近年の国内外の情勢変化により、安保闘争などのデモ警備から国際会議での各国首脳警備、国際テロやサイバー攻撃に対する警備などに重点が移ってきたが、治安維持の最後の砦の役割はいささかも変わるものではない。自然災害も激甚化しており、救援捜索活動への出動が頻度、規模ともに大きくなっている。こうした大規模警備や災害時の救援捜査活動に対し、当会としても引き続き支援を行っていく」などと語った。

来賓挨拶に続けて広島県警察音楽隊が楽曲を披露。広島東洋カープのテーマソングなどの演奏し場内を盛り上げた。

盛会の最後には、全員が壇上で肩を組み「この世を花にするために」を熱唱。白田学・日本製鉄中国支店長が謝辞を述べ、力強い発声で万歳三唱した。